

名前【 】

神戸新聞 2020年11月06日 金曜日 面名 タニ社 タ4 6ページ



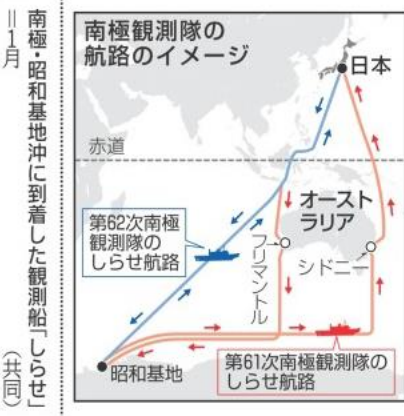
豪州寄港取りやめ・人員、期間も縮小 コロナ禍 異例の南極観測隊

隊員交代と物資補給を最優先

新型コロナウイルスの流行が、今月20日に日本を出発する第62次南極観測隊の活動に影響を及ぼしている。隊員を南極に運ぶ観測船のしらせは例年と異なり、燃料などの補給地点となるオーストラリアには寄港せず、日本と昭和基地の直行直帰。隊員は検疫のため出発前に2週間、ホテルで缶詰めとなる。観測項目や人数も絞り、異例すくめの行程が始まる。

通常、観測隊は空路でオーストラリアに入り、先に陰性を確認して乗船する。日本を出発してはしらせ オーストラリアでの補給がに乗り込む。だが、現地でできないため、出港から帰国までの日数も当初計画の151日から95日へ大幅に短縮。南大洋で行う海洋観測など縮小した。

観測船の横須賀基地(神奈川県横須賀市)近くで乗船。観測隊の実務を担う国立極地研究所(東京都立川市)によると、1956年に始まった日本の南極観測事業で、観測船が外国の港を経由しないのは初めてだ。しらせや昭和基地にウイルスを持ち込まないよう、隊員は出発前の2週間、ホテルで缶詰めとなる。観測項目や人数も絞り、異例すくめの行程が始まる。



南極・昭和基地沖に到着した観測船しらせ(共同)

第62次南極観測隊 例年との主な違い		例年	第62次隊
観測船しらせの経路と運航日程	往路、復路ともオーストラリアに寄港。150日程度		日本から昭和基地に直行直帰。95日間
検疫	なし		出発前に2週間ホテル入り
隊の編成	本隊のほかにも別動隊あり		別動隊なし、夏隊の人数も削減

観測隊が最優先する越冬隊員の交代と物資の補給以外の業務を絞った結果、活動量はコロナの影響がなかった場合の6割程度になる見通しだ。東京海洋大の練習船「海鷹丸」などによる別動隊の活動も今年には実施されないことになった。遠い南極へ、はるばる旅立つ隊員たちを送り出す送別会や壮行会、見送りなどの行事も軒並み自粛。第62次隊の建築担当隊員で、これまで3回観測隊に参加経験のある梅田利郎さん(50)は「なるべく人と接触しないようにしている。送別会もオンラインでやってもいいことになった」と話す。今春に南極から帰国した第61次隊で副隊長を務めた極地研南極観測センターの熊谷宏靖さん(47)は「途絶える価値が損なわれる観測もある」と話し、観測継続の重要性を強調する。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①今年出発するのは第何次観測隊ですか。観測船の名前は何かと書いてください。

第 次南極観測隊 観測船

②異例の内容を書き込みましょう。

には寄港せずに日本と昭和基地の直行直帰。
 隊員は出発前の 週間、ホテルで隔離。 検査で陰性を確認。
 「海鷹丸」などによる の活動も今年には実施しない。
 出港から帰国までの日数も151日から 日へ大幅に短縮。
 で行う海洋観測なども縮小した。
 隊全体の人数は当初計画の80人から 人に。

③感想を書きましょう。